

**三原市立本郷小学校 第1学年 算数科学習指導案**  
**単元名：みんなでたしざんめいじんになろう！**  
**— たしざん（１） —**  
**本単元で育成する資質・能力 論理的思考力**

指導者 大石 有華

**1 日 時** 平成30年6月29日（金）第5校時（13：55～14：40）

**2 場 所** 1年2組 教室

**3 学年・組** 1年2組（男子15名、女子15名 計30名）

#### 4 単元設定の理由

##### （1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領、第1学年の内容「A数と計算」「（2）加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。」を受けて設定している。

これまでに児童は、「ふえたり へったり」の学習で、具体的な場面を通して数量が増えたり減ったりすることを理解し、数図ブロックを操作することができた。また、数量が増減する場合の言葉についても学習してきた。

たし算を初めて学習する1年生にとって、様々な場面がたし算で考えられるということ判断できるように、ここでは、具体的な操作を通して、たし算が用いられる場面を知り、たし算の記号や式の読み方、書き表し方について理解していく。また、「式」は、場面の様子や、答えを求める過程を表現するために重要な「算数のことば」であるという意識をもたせていく。たし算の意味を理解し、計算の仕方を考え、説明し、適切に用いることは、これからの計算の基礎となる学習であり、これからの加法、減法の学習へとつながっていく。

##### （2）児童観

本学級の児童は、入学後から算数科学習に意欲的で、新しいことを学びたいと前向きに学習に取り組めることが多い。全体的に明るく元気ではあるが、勢いよく挙手するものの、実際に指名されると、言いたいことが上手く言葉で表現できなかったり、小さい声になってしまったりする児童が多い。

本単元における実態調査は以下の通りである。

（実施日 6月22日 実施人数27名）

1	算数の学習が好きか。	はい 23名	いいえ 4名
2	10の分解が正しくできるか。（5問）	正解 22名	不正解 5名
3	数が増える言葉と減る言葉の仲間分けができるか。（5問）	正解 23名	不正解 4名

既習学習「かずとすうじ」においては、具体物や数図ブロックを用いた具体的な操作を通して、どの児童も0～10までの数を数えたり書いたりすることは概ねできている。また、数の順序や大小、10までの数をいくつといくつになるかを学習した。10の合成・分解については、問題の間われ方が変わると、問題場面が把握できず、間違ってしまう児童が数名いる。

### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、数図ブロックの操作を通して、合併や増加の場面も、同じたし算であることを理解させる。

初めてのたし算の学習を通して、たし算の学習をもっとできるようになりたいという児童の意見を引き出し、「みんなでたしざんめいじんになろう！」と「課題設定」を行う(UD⑤見通し)。まず、合併の問題場面を掛図で示したり、数図ブロックを使って操作させたりするなどの活動を通して、「情報の収集」、「整理・分析」を行っていく(UD⑨視覚化)(UD⑩動作化)。増加の問題場面も同じ順で答えを導いていき、数図ブロックの増え方は違うが、式の立て方は同じであることを捉えさせる。そして、式からお話をつくる活動を通して、様々な場面でたし算が考えられるということに気付かせることで、学習の理解を深める。その後、ゲームを通し、たし算カードを繰り返し活用しながら、たし算の理解を確かなものにしていく。

#### <本単元で育成しようとする資質・能力とのかかわり>

本単元では、具体物の操作を通して、合併と増加の場面を児童に捉えさせる。なぜ、たし算になるのか「あわせて」、「ぜんぶで」、「みんなで」の言葉に着目させながら、説明させる場面を設定することによって、論理的思考力を高める。

### 5 単元の目標

- たし算が用いられる場面を知り、たし算の記号やよみ方、かき方を理解する。
- (1位数) + (1位数) = (10以下の数) のたし算ができる。

### 6 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。	合併や増加の場面を、同じたし算と考えることができる。	合併や増加の場面をたし算の式に立式し、(1位数) + (1位数) = (10以下の数) を計算することができる。	たし算が用いられる場面、たし算の記号や式のよみ方、かき方を理解する。

### 7 指導と評価の計画 (全8時間)

時間	狙い・学習活動	評価規準 (評価方法)			
	☆学習スパイラル(6つ)を明記	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数図ブロックを操作し、「合併」の場面を理解する。</li> <li>○すうずぶろっくをまんなかにごかしてかんがえる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">課題の設定 情報の収集</p>	○数図ブロックを操作しながら、「合併」の場面を表そうとしている。(発表・行動観察)	◎数図ブロックを操作しながら、「合併」の場面を表している。(ノート・発表)		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算の式を知り、たし算の式にかいて答えを求めることができる。</li> <li>○あわせるときは、たしざ</li> </ul>		◎式を構成する数はそれぞれ何を表しているのか、+と=は何		○たし算の式を知り、式の書き方を理解している。(ノート)

	<p>んでもとめる。</p> <p><b>情報の収集</b></p>		<p>を表しているのか理解して立式し、答えを求めている。</p> <p>(ノート・発表)</p>		
3	<p>・数図ブロックを操作し、「増加」の場面を理解する。</p> <p>○ふえるときは、ぶろっくをかたほうだけうごかしてこたえをもとめる。</p> <p><b>情報の収集</b></p>	<p>○数図ブロックを操作しながら、「増加」の場面を表そうとしている。(発表・行動観察)</p>	<p>◎数図ブロックを操作しながら、「増加」の場面を表している。(ノート・発表)</p>		
4	<p>・「増加」の場面でも、たし算の式にかいて答えを求めることができる。</p> <p>○ふえるとも、たしざんでこたえをもとめる。</p> <p><b>情報の収集 整理・分析</b></p>		<p>◎増加の場面でもたし算に表せることを理解し、立式し答えを求めている。(ノート・発表)</p>		<p>○「増加」の場面も、「合併」と同じようにたし算で表せられることを理解している。(ノート)</p>
5	<p>・具体的な場면을たし算の式に表す。</p> <p>○おはなしのとおりにかくと、しきができる。</p> <p>○「あわせて」、「みんなで」、「ぜんぶで」のこたえをみつける。</p> <p><b>課題の設定 整理・分析</b></p>		<p>◎具体的な場면을たし算の式に表している。(ノート・発表)</p>		
6	<p>・たし算の式から具体的な場면을よむことで、たし算の式についての理解を深める。(本時)</p> <p>○しきのとおりにおはなしをかく。</p> <p>○「あわせて」、「みんなで」、「ぜんぶで」のこたえをいれる。</p> <p><b>整理・分析 実行</b></p>		<p>◎たし算の式を見て、それらが適用できる具体的な場面からお話をつくることができる。(ワークシート・発表)</p>		
7	<p>・たし算カードを使って、たし算について習熟する。</p> <p>○しきはちがっても、こたえがおなじものがある。</p> <p><b>まとめ・創造</b></p>	<p>○たし算カードゲームを通して、たし算の理解を深めている。(ノート・行動観察)</p>			
8	<p>・学習内容を確実に身につける。</p> <p>○みんなでたしざんめいじんになれた。</p> <p><b>振り返り</b></p>		<p>○問題場면을把握し、立式して答えを求めている。(ノート)</p>	<p>◎練習問題を通して、たし算の学習の理解を深めている。(ノート・発表)</p>	

## 8 本時の展開

### (1) 本時のめあて (目標)

たし算の式から具体的な場面をよむことで、たし算の式についての理解を深める。

### (2) 観点別評価規準

◎たし算の式を見て、それが適用できる具体的な場面から、お話をつくることができる。

評価方法：ワークシート 発表

### (3) 本時で育成したい資質・能力の評価基準 (達成した児童の姿)

資質・能力	評価基準(達成した児童の姿)
論理的思考力	<p>A たし算の式を見て、それが適用できる具体的な場面を自ら見出し、お話をつくることができる。</p> <p>B たし算の式を見て、それが適用できる具体的な場面から、お話をつくること ができる。</p> <p>C 課題を解決することができない。</p>

### (4) 学習の展開

	学習活動 ・児童の思考の流れ学習スパイラル	指導上の留意事項(・) (支援の具体的UD)	○評価規準 (評価方法) ★達成した児童の姿(資質・能力)
導入	<p>1 問題場面の把握</p> <p>○ <math>3+2=5</math> になる絵を見て、気づいたことを交流する。</p> <p><b>情報の収集 整理・分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが遊んでいるよ。</li> <li>・自転車が5つあるよ。</li> <li>・白い花が3つ、赤い花が2つあるよ。</li> <li>・ <math>3+2=5</math> の式ができそう。</li> </ul> <p>2 めあての作成</p> <p><b>課題の設定</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気づきの中で、前時はお話から式を作ったことを想起させ、今回は式からお話をつくることを意識させる。</li> </ul> <p>(UD⑧スモールステップ化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵を見て、気付いたことを自由に述べて、お話づくりの材料を集める。</li> </ul>	
	<p>めあて しきから おはなしを つくるには？</p>		

展 開	3 問題の集団解決 情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵の中の何で話がつくれそうか意見を出させる。</li> <li>「あわせて」「みんなで」「ぜんぶで」等、たし算のキーワードになる言葉を確認する。 (UD⑤見通し)</li> <li>一人で考えにくい児童には、既習事項を確認させたり、文の書き始めを指導しながら話をつくらせていく。</li> <li>文章が十分に書けない児童には、穴あきのワークシートを用意して考えさせる。</li> <li>全体で交流する前に、ペアで数図ブロックを操作しながら交流させることで、一人ひとりが活躍できる場を作る。</li> <li>数人の児童の意見を黒板に提示し、気づきを見つけさせる。 (UD⑩シェア)</li> <li>同じものでも、視点を変えると違うお話ができることに気付かせる。</li> <li>児童の発言から結び付けて本時のまとめにする。</li> </ul>	(個人)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>たしざんにするには、たし算の言葉をいれないといけな いよ。</li> <li>3つの文でつくるよ。</li> <li>青いタイヤが3個あります。 黄色いタイヤが2個ありま す。 あわせて5個です。</li> <li>子どもが3人遊んでいます。 あとから2人きました。 みんなで5人になりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章が十分に書けない児童には、穴あきのワークシートを用意して考えさせる。</li> </ul>	<p>☆論理的思考力</p> <p>A たし算の式を見て、それが適用できる具体的な場面を自ら見出し、お話をつくること ができる。</p> <p>B たし算の式を見て、それが適用できる具体的な場面から、お話をつ</p>
	4 学習課題解決方法の まとめ まとめ・創造・表現		(ペア活動)
		まとめ しきのじゅんばんにおはなしをかく。 「あわせて」、「みんなで」、「ぜんぶで」のことばをいれる。	(全体)
	5 評価問題 ・4+2=6になるお話をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体交流で数図ブロックを操作しながら確認する。</li> </ul>	<p>○たし算の式からお話をつくり、たし算の式についての理解を深める。 (ワークシート・発表)</p>
ま と め	6 振り返り 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習をチェックシートに振り返らせる。その際、コミュニケーションカードの言葉を使ってまとめさせる。</li> </ul>	
	7 これからの見通し		

## 9 板書計画

6/29 みんなでたしざんめいじんになろう！㊦しきからおはなしをつくるには？  
たしざん（1）

㊦

絵

- じてんしゃが5つ
- しろいはなが3つ
- あかいはなが2つ
- $3+2=5$

㊦○○さん

きいろいじてんしゃが3つあります。
あおいじてんしゃが2つあります。
あわせて 5つです。

㊦○○くん

しろいはなが3つあります。
あかいはなが2つあります。
ぜんぶで 5つです。

㊦●●さん

こどもが3にんあそんでいます。
あとから2りきました。
みんなで 5にんになりました。

㊦

- ①しきのじゅんばんにおはなしをかく。
- ②「あわせて」、「みんなで」、「ぜんぶで」のことばをいれる。

評価問題

あおいふうせんが4つあります。
あかいふうせんが2つあります。
ぜんぶで 6つです。